

2002. 夏 「ねぶた」と「ねぶた」

-津軽から青森・十和田湖へ

nbta00.htm 2002.8.3-5. by M. Nakanishi



2002. 夏 「ねぶた」と「ねぶた」

16.1. 津軽 ねぶた祭 弘前・五所川原・青森

16.2. 津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム

2002. 8.3. - 8.5. 思い立って 津軽から青森・十和田湖へ家内と二人でかけました。
青森市郊外から西へ 岩木山を背に広がる津軽平野。

8月 岩木山山麓の広大なりんご畑にはりんごが実り、「嶽キミ」という甘いトウモロコシ そして街々にはねぶたの囃子が響く。

津軽の中心 弘前・五所川原には盛大なねぶた祭がある。

関東にいる間に一度みせたかった青森の「ねぶた」

手作りで情緒あふれる

20m の高さを超える勇壮な

ハネコがはねるエネルギーな

弘 前 「ねぶた」

五所川原 「立佞武多」

青 森 「ねぶた」

同時期に三つの「ねぶた」を一緒に見るのは初めて。

学生時代に見た青森「ねぶた」のあのすごいエネルギー。

2年前 弘前で見た扇形ねぶたの美しさと情緒あふれるねぶた囃子の笛の音。そして 津軽の人が自慢する復活した五所川原の「立佞武多」のスケールの大きさ。

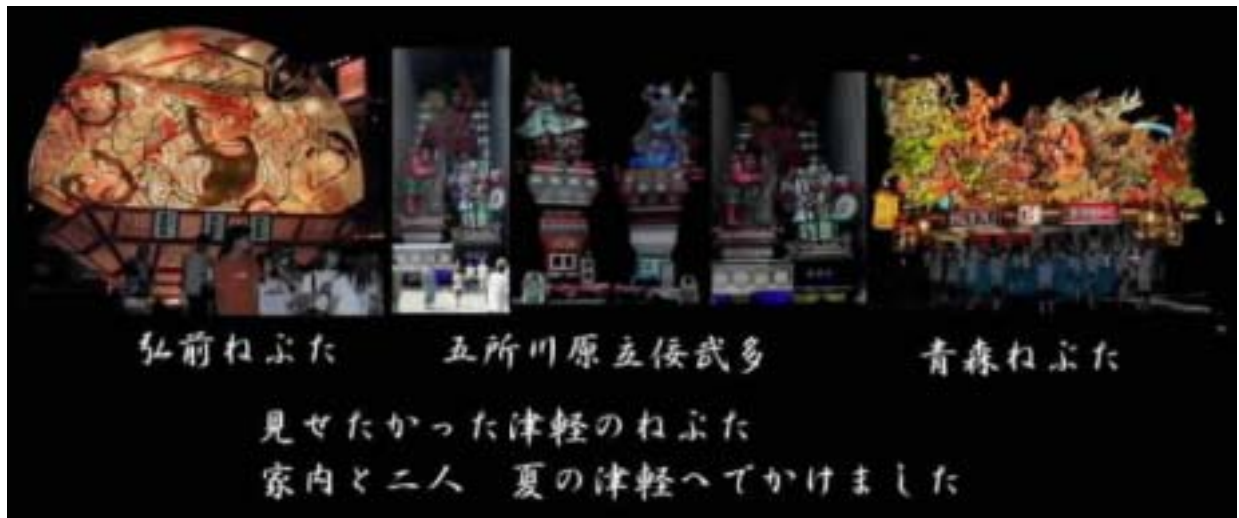
欲張った計画ですが、この三つの「ねぶた」を見て、りんご畑の広がる「津軽富士 岩木山」。

三内丸山遺跡にも行って あとは 八甲田山を越えて奥入瀬・十和田へ 昔を懐かしむ旅

旅館が取れず苦労しましたが、毎度の事 青森でレンタカー借りて 家内の運転でゆったり気の向くま

まの旅 津軽の夏を楽しみました。

16.1. 津軽ねぶた祭 弘前・五所川原・青森



2002. 8.3-4.夜 by M. Nakanishi

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 手作りで情緒あふれる | 弘 前 「ねぶた」 出陣 ねぶた |
| 2. 20m 高さを超える勇壮な | 五所川原 「立佞武多」 合戦 ねぶた |
| 3. ハネコがはねるエネルギッシュな | 青 森 「ねぶた」 凱旋 ねぶた |

青森は・五所川原「ねぶた」弘前では「ねぶた」といい、「ねぶた」運行に参加する事を青森では「凱旋」弘前・五所川原では「出陣」というらしい。

弘前のねぶたは扇型なのに対し、青森・五所川原では立体的な武者人形型。

また、笛・太鼓のお囃子もほとんど同じであるが、弘前の方が少し遅い。

青森では「ねぶた」の運行にあわせ、「ハネト」の集団が囃子にあわせて「ラッセラ ラッセラ」と跳ねて踊るのに対し、弘前では「ハネト」はおらず、「ヤヤド」の掛け声にあわせて 2本の綱でみんな一団となって「ねぶた」を引く運行行列。

情緒があるのは弘前 ダイナミックなのは青森 ねぶたの大きさに圧倒される五所川原。

1. 弘前「ねぶた」出陣

8.3. 岩木山の山麓 岩木高原に宿を取って 夕方弘前の街へ

重文の旧青森銀行横の大通り・弘前城のお堀端など 辻々にねぶたの隊列が運行スタートを待っている。

弘前のねぶたは扇型。



表には中国の故事の武者絵が独特の筆遣いで描かれ、裏面には美人絵が描かれている。闇の中に浮かび上がるこのコントラストが何ともいえぬ情緒をただよわせる。

あまり広くない大通りの両側には多くの人がスタートを待っている。

夕闇の中 一昨年と同様 大きなジョッパリ太鼓を先頭に「ねぶた」の行列が「ヤヤドー」の掛け声とともに次々とスタート。大人も子供も一体となったねぶたの行列が進んでゆく。

弘前では子供達の引く幾つかの小さなねぶたを前に中のねぶた 高さ 5m を超える大きなねぶた本体が続き、その後ろに太鼓・笛・鐘の囃子方が続く。

この「ねぶた」の順番は昔からで、何かにつけ 津軽では昔から「おおきいのはあとから・・・」とすぐ言われると。



ねぶた 前面 武者絵



後面 美人絵 鬼沢ねぶた 2002.8.3.夜

暗闇の中に浮き上がるねぶたとともに強烈な太鼓のリズムと哀調を帯びた笛の音がひびく。

暗闇に浮き上がる扇面の武者絵とそれがくると回転して裏面が出ると美人絵。そして、その行列が囃子の音とともに美人絵を見せながら暗闇に消えていく。そんな行列が100近く続く。

この美しさは企業集団ではなく地域の人達の手作り 子供から大人まで行列を組む伝統に支えられていると見た。



「ねぶた」とはそもそも暑い夏のねむけばらいに夕方 街の中心にでて ねぶたの行列を組んでねぶた運行の行列として歩いたのが始まりとの俗も・・・

この「ねぶた」の運行に加わることを「出陣」というが、参加する集落には「出陣」の幟がはためき、昔は1日かけて集落から

ねぶたを弘前の街まで引いて行きこの運行に参加したと・・・

夏の暑い中 街まで 田圃の中 遠い道程を歩いていった子供の頃の思い出が今も強烈に残っていると人はいう。今は トラクターや車がひっばってゆくと。

和鉄にまつわる鬼伝説の郷 鬼沢の「ねぶた」も健在でした。

また 子供達の「きんぎょねぶた」なども・・
 ねぶた運行が終わった後、ねぶた囃子をかなでながら
 真っ暗な岩木川の対岸の村に帰る一群にも出会い 川
 原に下りてそのねぶた祭りの余韻を楽しみました。
 なぜか 子供の頃の地車囃子が遠ざかってゆく祭りの
 終わりへと重ねていました。
 私のイメージでは 暗闇に消えてゆくねぶたが岩木山
 に住む鬼と重なって 哀調を帯びた笛の音にマッチ
 して余計に印象的でした。



集落へ帰り行くねぶた 2002.8.3. 夜

2. 五所川原の立佞武多 [nbta02.htm](#)



高さ 20m を超える 五所川原の立佞武多 2002.8.4. 昼 JR 五所川原駅前

青森 = 岩木山・弘前 = 津軽半島への玄関口五所川原 津軽平野がこの三角形の中にすっぽりと収まる。
 青森・弘前からそれぞれ車で約 30 分 鉄道は青森から弘前を経て五所川原につながる津軽半島への玄関
 口である。五所川原からは津軽半島の先へむかって太宰治の故郷 金木・中里まで津軽鉄道【津軽軽便
 鉄道】が走っている。

小さな駅前広場にひっそりこの津軽鉄道と JR の駅舎がある田舎の駅前。でも 津軽の中心として駅前から一歩外へ出ると市街地改造が進められているというのが、2 年前津軽・白神へ行った時の五所川原の印象。

「数年前から復活した立佞武多のスケールの大きさと祭りの熱気。五所川原の「ねぶた」はスバラシイ・・・」とその時にも津軽でよく聞きました。

五所川原の立佞武多 昼しかみれなかったのですが、すごいですね。

五所川原駅前に並んだ迫力の写真送ります。夜運行さたらもっとすごいでしょ。



鮮やかな色彩の中 奈良の四天王像や十二神将像の迫力以上。

残念ながら光のはいった運行の様子は見れず。でもその迫力はみんなが言うだけの事昼間でも感じました。今後 弘前とは違った形での祭りが年々盛んになると感じました。

夜 灯の入った五所川原

8.4. 車で五所川原駅前へ あの沈滞ムードの駅前からすり抜け森五所川原駅前 JR の駅に並んで、高さ 20m を超す巨大な箱が二箇所に建ち、その中に巨大な武者像が 4 基すっぽりとおさまり、見物の人たちで駅前是人でごった返している。数年前から五所川原では毎年 1 基づつ立佞武多を復活してきたという。

その前に立つと本当に人が小さい。圧倒的なスケール。真下に建って見あげるとその威圧感に圧倒されて、言葉なし。



「立佞武多」 インターネットより

3. 青森 ねぶた 凱旋 2002.8.4.



8.4. 夜 38年振りに「青森ねぶた」も見ました。

夕刻 まだ 薄明かりの中 6時30分 ねぶたの運行が開始されました。

ねぶた囃子に合わせ、ねぶたが舞い、ハネトが踊る。見る側との一体感

そんな熱気が延々と通り一杯にくりひろげられる。

実はそんな昔のハネトとねぶたとが一体となった迫力を期待したのですが、残念ながら夢と期待が大きくて消化不良気味。



祭が有名になって 多くの人が集まって 偶像的につくられて、自分達の祭から遠のいて見せる祭りになっている。特定の見せ場以外では ただ だらだらと・・・間延びして全く迫力がない。

ずっと 抱いてきた青森「ねぶた」の「ラッセラ ラッセラ」の響きとは随分違うものになって・・・

ハネトの集団もねぶた運行集団・囃子方 それぞれがバラバラ ハネトなど全くハネズにパレード。

最も一部の人々が跳ねて踊る時の迫力は昔のまま すごいエネルギーを感じましたが・・・



元気一杯 跳ねる ハネト



ねぶたを傾け 観客に演技するねぶた

短時間ですが、

ねぶたが観光客の方へ迫って来た時の迫力

夢中で踊るハネトの若者

立ち止まって観客へ向って ねぶた囃子を披露してくれる囃子方



観客に演技する囃子方

それぞれには強烈なパワーを感じるのですが、なにか はっきりとした筋無しの雑然とした行列。なにか街のパレード見るようになっていきます。また、バケツというのだそうですが、行列の横で 全く意味もなく 浮いた存在で仮想の人が愛嬌を振りまいている。

観光客が増え、ねぶたは大掛かりになり、行列も長くなりましたが、TV や写真が一瞬だけを捕らえて偶像的に演出し、生の魅力をおおる。

そんな存在になって、生の魅力・熱気が消えている。観光客のために水ぶくれ。

「ヤヤド」の掛け声にあわせ 行列が一つになり進んでゆく弘前 そして 見ている人の拍手に答えてストップするとくるっと扇面を回転させて見せてくれる。そして また、「ヤヤドー」の声とともに進みだす。みんな拍手でねぶたを見送る。

なんともえらい違いになったなあ……期待していたあのパワーと一体感は何処へいったのだろう。

ねぶたの運行か ハネトの踊りの行列か 行列の意図ははっきりしないとすたれと感じました。でも やっぱり、「ラッセラ ラッセラ」の掛け声は魅力。

この場面を思い返すととすごい。

伝統のマンネリの中に魅力を感じる弘前ねぶた
新興の新しい魅力を持ち出した五所川原
青森のねぶたも

観光客・企業おんぶのねぶたから マンネリ化
打破の「ラッセラ ラッセラ」が
必要ではないか



2002.8.8.青森物産センタ三角ビルの上お茶をのみながら
凱旋を終え 帰り行く「ねぶた」を眺めつつ

16.2. 津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム



- 【1】- 岩木山山麓 -
- 【2】- 弘前の街 散歩 -
- 【3】- 八甲田山・奥入瀬溪流 -
- 【4】- 十和田湖・重文「康楽館」小坂町-



津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム 【1】

・ 岩 木 山 山 麓 ・

岩 木 山 八合目
岩木山スカイライン



雲海の内より八甲田・白神山地の山々が浮かんで見えます。下は、残念ながら、津軽平野の足尾は雲の中



岩木高原

2002. 8. 3, 4.



りんご園



岩木山神社



嶽牛ミ直売所



白神山地

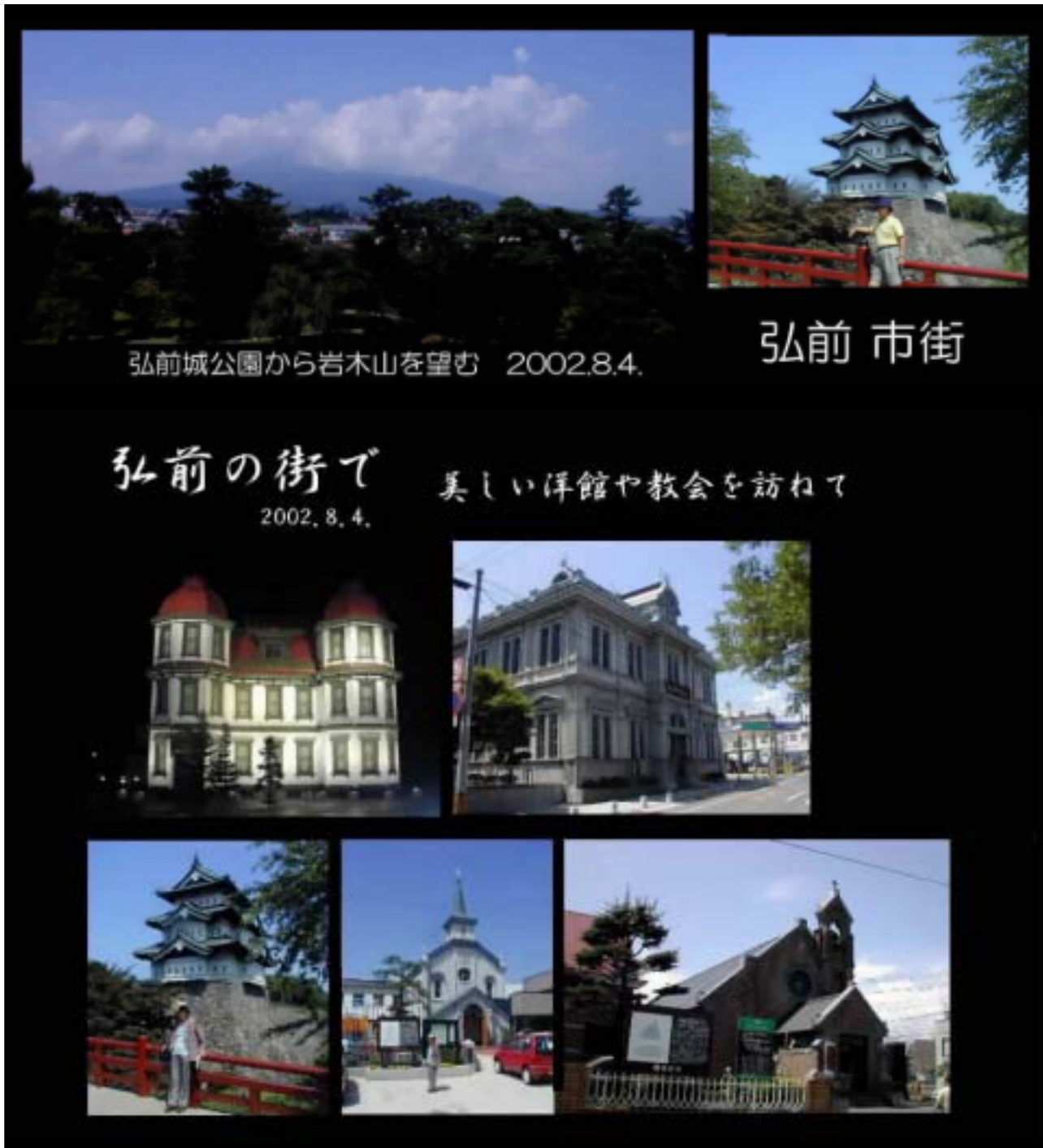


岩木山高原

津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム【2】 弘前の街 散歩 -

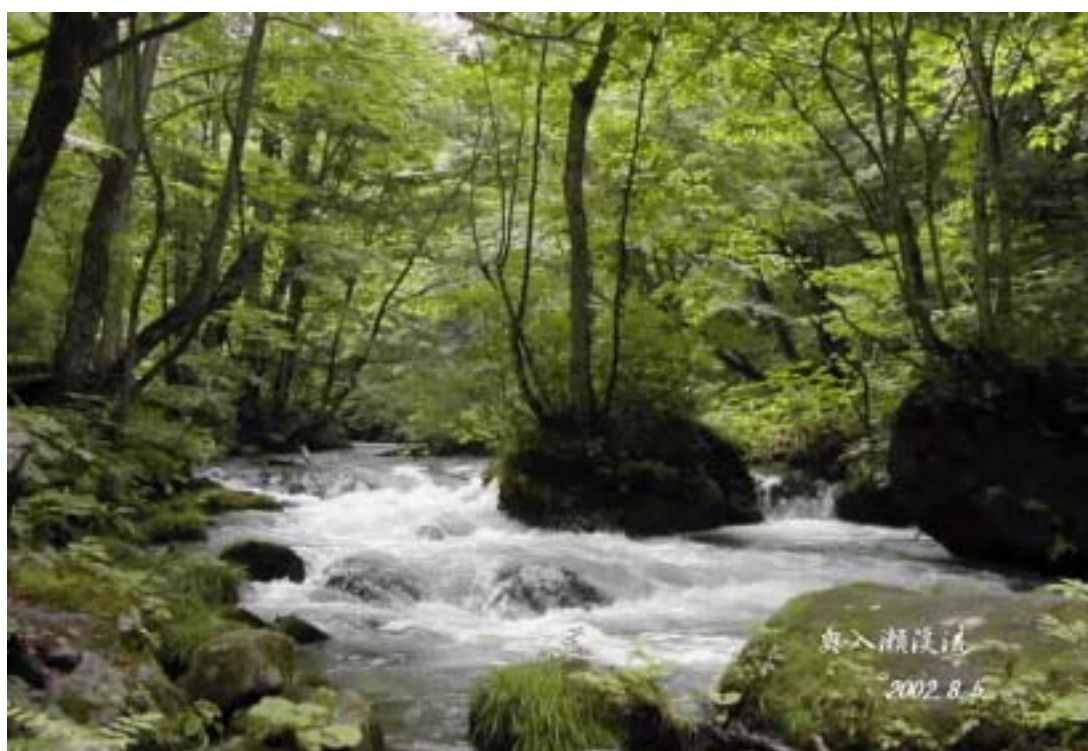
津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム【2】

弘前の街 散歩 -



津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム 【3】

・ 八甲田・奥入瀬溪流 -



津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム【4】

- 十和田湖・重文「康楽館」小坂町 -



16. 2002. 夏 「ねぶた」と「ねぶた」

16.1. 津軽 ねぶた祭 弘前・五所川原・青森

16.2. 津軽・青森・八甲田・十和田湖アルバム

【完】